

2年 単元名「生きものといっしょに～海の生きものとなかよし～」(生活科 里海に関する時間18時間)

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

動物を飼う活動を通して、どんな生きものに対しても成長の変化や様子に関心をもって、働きかけることができるようにし、日々の生活の充実につなげる。

2 単元目標

身近な生きものを探したり、観察したりしながら継続的に飼育活動を行い、育つ環境・成長・変化の様子に関心をもつとともに、生きものに親しみをもち大切にしようとする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
身近な生きものに関心をもってかかわり、生きものに親しみをもち、大切にしようとしている。	生きものの育つ場所、変化や成長について考え、世話のしかたを工夫したりして、それらを表現することができるようにする。	生きものの世話を通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付くことができるようにする。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	育てたい生きものを話し合う。 ・1学期に見つけた海の生きものを振り返る。	・1学期の時の海に行った写真や作成した海マップを提示する。
2 3	海の生きものを採集する。 ・海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」で、育てたい生きものを見つけ、採集する。	・救命胴衣、マリンスーツを着用する。
4 6	育てる生きものについて調べる。 ・生きものが好むすみかとエサを調べ、まとめる。 ・すみかに必要な材料を集めに海に行く。 調べたことをもとに、すみかを作る。 ・水槽の中にすみかを作り、生きものを入れる。	・本や図鑑を見て調べる。 ・生きものをつかまえた場所から材料を集める。
7 10	水族館をつくる計画を立てる。 ・目的を確認し、計画を立てる。 ・生きものの観察を繰り返し行い、観察したことをカードにまとめる。	
11 14	水族館の準備をする。 ・招待状やゲーム、景品などを作成する。 ・生きもの紹介カードを作成する。 ・招待する練習をする。	

15	水族館に招待する。	
16	・1年生とお世話になった先生方を招待する。	
17	生きものを海に返しに行く。	・今後について子どもの思いを大切にしながら、生きものの幸せについても考えるようにする。
18	・生きものにとっての幸せを考え、話し合う。 ・お別れの手紙を書き、生きものを海に返す。	
外部連携／教材等 ・能登里海教育研究所 浦田 慎先生 能丸 恵理子先生 ・のと海洋ふれあいセンター 【資料】能登里海教育研究所 『海の観察ガイド』		

5 活動の様子



すみか作りの様子



九十九っ子水族館



生きもののお別れ会



6 成果・課題

- 実際に飼育活動をすることで、生きものへの愛着がわき、責任をもって飼育する姿が見られた。
- 海の生き物と継続的なかかわりを通して、成長の様子や生命を持っていることを実感できた。
- 「九十九っ子水族館」や「お別れ会」を計画、実践することで、活動意欲が高まり、達成感が持てた。
- ▲計画していた時数より少しオーバーしたため、ほかの単元の学習時間に影響があった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・いつもふれあいセンターに行ったら、おでむかえしてくれてありがとう。広い海にいたのに、水そうのせまいところがまんしくてくれてありがとう。海にかえっても元気でくらしてください。
- ・今までありがとう。今どかえしてあげるからね。おかあさんに会いたかったね。ごめんね。海でくらしてもわたしたちのことわすれないでね。
- ・わたしたちといっしょにいてくれたんだけど、水そうはせまかったかもしれないね。広い海で家ぞくと元気にくらしてね。たのしい時間をありがとう。大すきだよ。わたしたちのことわすれないでね。
- ・いままでいっしょにいてくれてありがとう。えさは海にかえったら自分でさがしに行つてね。たいへんだけど、自分でしなきゃいけないからね。海は広いから気持ちがいいと思うよ。
- ・またどこかで会えるといいな。かなしいときには、わたしたちのこと思い出してね。わたしはわすれないよ。